| 学校番号 | 413 |
|---|---|

# 令和２年度　国語科

| 教科 | 国語科 | 科目 | 現代文Ｂ | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 「現代文Ｂ」　（教育出版　現３２７） | | | | | | |
| 副教材等 | 「イラストとネットワーキングで覚える　現代文単語」（いいずな書店）<br>「新成現代文　大学入学共通テスト対策版」（尚文出版）<br>「新国語総合ガイド　五訂版」（京都書房）<br>「新国語総合ガイド準拠学習課題ノート　五訂版」（京都書房）<br>「頻出　入試漢字コア２８００」（桐原書店） | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生で学んだ内容を基礎に、より内容が深い現代文を読解していく。さらに、評論文、小説に独特な表現を理解しながら筆者の思考、表現をとらえ、自らの考え、表現の参考にできるよう学びたい。

## ２　学習の到達目標

・文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情の描写などを的確にとらえることが出来る。
・文章を読み、批評することを通して、人間、社会、自然などについての自分の考えを深めたり、発展させたりしていくことができる。
・人間関係において様々な場や場合に応じて、互いを尊重し、相互理解を深め、意思を伝え合うことができる。
・目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現できる。
・語句の意味・用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てることができる。
・自主的に学習計画を立て主体的に読書をする習慣を身につける。

## ３　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:話す・聞く能力 | c:書く能力 | d:読む能力 | e:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 国語で理解し、考え、表現する力を積極的に高めようとしている。言葉に意を払い、向上を図ろうとしている。 | 目的、場に応じた効果的な発話ができ、的確に聞きとることができる。それらを基に考えを深めている。 | 必要な情報を用い、目的や課題に応じて適切に文章化できる。 | 近代以降の文章を的確に読み取っている。さらに目的に応じて幅広く読書できる。自らの考えを深化させている。 | 言語文化、言葉のきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けていこうとしている。 |
| 評価方法 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | e | | |
| 1学期 | 随想 | 【近代以降】<br>教材:<br>「大人への丸太　たじろがず渡ってみよう」 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ａ：教材を積極的に読み、自分自身と関連付けて考えようとする。<br>ｂ：集中して聞き、理解する。<br>ｃｄ：言葉が一人の人間の人生に与える影響の大きさを理解し、まとめることができる。<br>ｅ：語句の意味や比喩表現を的確にとらえ、倒置法の効果を理解している。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |
| | 評論 | 【近代以降】<br>教材:<br>「ミロのヴィーナス」 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | ａ：本文の構成をつかみ，取り上げられている事柄に注意している。<br>ｂ：ﾐﾛのｳﾞｨｰﾅｽが魅惑的である理由について筆者の考えが把握できる。<br>ｃ：抽象的語句や逆説的，比喩的表現の具体的な内容を理解している。<br>・対象の魅惑、復元案を段落の関係に留意してまとめる。<br>ｄ：筆者の主張を上記の観点からまとめることができる。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |
| | 小説 | 【近代以降】<br>教材:<br>「山月記」 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ａｅ：漢文調の語句の意味を辞書を用いて明らかにしていく。<br>ｂ：本文を適切に場面に分けし，それぞれの要点をまとめている。<br>ｃ：各場面の登場人物の心理を読み取り、まとめることができる。<br>ｄ：文章に描かれている人物の心情を表現に即して理解できている。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |
| 2学期 | 詩歌 | 【近代以降】<br>教材:<br>「竹」<br>「のちのおもひに」<br>「永訣の朝」 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ａ：関心もって詩の世界に触れられている。<br>ｂ：音読を味わえる。工夫して音読できる。<br>ｃ：感想をまとめられている。<br>ｄ：詩に描かれている情景を，語句や表現に注意して読みとれている。特徴的な表現を把握し、味わえている。<br>ｅ：文学史上の意義を理解している。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 詩歌 | 【近代以降】<br>教材:<br>俳句 | ○ | ◎ | | ◎ | ○ | ａｅ：定型、季語、切れなど俳句の基礎知識を理解している。<br>ｂ：それぞれの俳句を音読し、作者について学び、作品を鑑賞しようとする。<br>ｄ：意味内容を理解している。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |
| | 評論 | 【近代以降】<br>教材:<br>「意味と身体」 | ○ | | ○ | ◎ | ○ | ａ：言語と身体の関係性について興味を持ち、すすんで本文を読んでいる。<br>ｃ：筆者の主張をふまえ、自分の経験を自分の言葉で表現している。<br>ｄ：筆者の主張を流れに沿って的確に読み取っている。<br>ｅ：言葉の意味・指示語の内容・接続詞のはたらきなどを正しくつかんでいる。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |
| | 小説 | 【近代以降】<br>教材:<br>「こころ」 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ａ：作者について学ぶとともに粗筋を理解している。<br>ｂ：本文を展開に従って意味段落に分け，各段落の内容を要約できる。<br>ｃ：登場人物の心情を理解するとともに、主人公の意図を考えている。<br>ｄ：「覚悟」の意味を推測して話し合い、作品のプロットを考えることができる。<br>ｅ：作品のテーマについて考えたことをまとめている。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |
| 3学期 | 評論 | 【近代以降】<br>教材:<br>「記号の世界を生きる」 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ａｅ：語句の意味を辞書を用いて明らかにし、自らのものとする。<br>ｂｃ：筆者の主張をふまえ、自分の体験談や具体例を説明している。<br>ｄ：構成や論の展開に沿って、システムと人間の関りについての筆者の主張を読み取る。<br>ｅ：言葉の意味・指示語の内容・接続詞のはたらきなどを正しくつかみ、記号論について理解を深める。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 評論 | 【近代以降】<br>教材:<br>「文学のふるさと」 | ○ | | ○ | ◎ | ○ | ａ：文学とは何かという問いに興味を持っている。<br>ｃ：筆者の述べる「文学のふるさと」がどのようなものかを理解し、自分の意見を的確にまとめている。<br>ｄ：四つの引例から、筆者が展開する文学とモラルとの関係を読み取る。<br>ｅ：論理の構成や展開、構成を正しくつかみ、生活から失われ始めた伝統的な美の本質について理解を深める。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・指名音読<br>・学習課題の提出<br>・定期考査 |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力

c:書く能力　　d:読む能力　　e:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。